

「沖縄から、新しい関節装具の確立をめざして」

株式会社佐喜眞義肢 代表取締役 ● 佐喜眞 保



義

肢装具士（P.O.）と言う仕事は、医師の処方のもと

理学療法士（P.T.）や作業療法士（O.T.）等のリハビリテーションスタッフと連携をとりながら、事故や疾病・疾患により欠損した四肢を代用する為の義肢、四肢及び体幹の失われた障害者の機能を補う為の装具などを製作し、フィッティングさせるのを職務とする国家資格の要る専門職です。義肢装具の製作は様々な材料を使い、色んな方法を駆使して多種多様な製品を作りますが、試行錯誤して完成した時はこの上なくやりがいを感じます。

この仕事との出会いは、福祉事務所の紹介で、職業訓練校の義肢装具科に入学したのがきっかけで、昼間は訓練校、夕方から義肢会社

で夜中の12時まで実習というハードな一年でした、当時は資格制度も無く、周りの人の進めるまま沖縄で開業しましたが、仕事は少なく施設の車椅子の修理や障害者仲間の義肢装具の修理製作をさせて頂きながら生業していました。

転機は今から十二年余前、半身マヒのお客さんと出会い新しい関節装具（CBブレース）を発明し特許を取得しました。装具の中央に「連結支持部材」を組み入れた構造で、特長は「軽くて丈夫ではき心地が良い」です。従来の装具と比べると装具の継ぎ手部分に支持部材を設けることで支持力が倍増し、その結果アームの形状を薄くする事で大幅に軽量化し、従来装具の履き心地を改善することが出来ました。

CBブレースの対象疾患には、「変形性膝関節・ポリオ・スポーツによる膝や肘障害・半身マヒ・関節リウマチ」等がありますが、半身マヒの障害は本人と医師やリハビリスタッフの努力で回復にやつと歩けるようになりますが、退院して一年も過ぎると個人差はあり

ますが、足先を突っ張り膝は反張になり、中には腰を引いて歩く人もいます。私の推測では半身マヒの人が下り坂を歩くとき、踵から地面につくと膝折れが起き易くなり恐怖を感じ、その結果足先を地面につけることで反張膝を安定させる歩行となります。ところが上り坂になるとこの歩行方法が災いして腰を引いて歩き膝の過伸展を起こしてしまします。CB反張用はこういう半身マヒの方に喜ばれています。もし退院直後にCBを着けて訓練するともっと良い結果が出せるのではないかと思います。ポリオ用のCBは現在フリー機構を好む方だけに製作しています。軽くて違和感が無いと、全国的に大好評です。リウマチ用CBは軽さが特徴です。またスポーツ障害用CBブレースは軽さと固定力と履き心地に特化しており、プロのアスリートにも愛用されています。次ぎに高齢者に多いといわれる変形性膝関節症は、膝の変形により片方の半月版（軟骨）に負荷がかかり軟骨が薄くなり、やがては骨と骨がこすれて痛くなる症状で

「加齢による」と言われますが、他にも要因があるのではと考えます、膝周りの筋力が衰えた人が歩行中、膝の内側に負担がかかる事が膝変形の要因ではと考えられ、やせた人より太った人が多いのも、体重を支える筋力不足が要因ではと考えられ、いずれも筋力不足が影響している様です。変形膝用のCB開発は、特に軽量化と履き心地を追求して来しました。関節症で膝が痛く杖をついてやっと歩いていた人がCBを装着したとたん、スツと立ち上がり、すたすた歩き出して、驚嘆、感涙する様子を数え切れないほど見て来ましたが、CBを着けての、正しい運動療法「筋トレ」を続ける事で多くの方に良い結果が出ています。

予防医療が推奨される昨今、元気な高齢者の健康を維持する事が、やがて迎える超高齢者社会の医療費問題の解決にもつながります。私はこのCBを「健康維持目的で運動するための装具」として、沖縄から他の産業と連携し新しいビジネスとして発信し、全国の障害者や高齢者社会にお役に立てる事を願っています。